

## 第6学年西組 社会科学学習指導案

### 「米づくりがもたらしたくへの道のり ～国づくりへの歩み～」

学習指導者 半澤 友博

#### 1 学級（34名）の実態

##### （1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

課題解決に向けて、資料を参考にしながら考えをもったり、友達はどうかなと考え、友達の考えを聞きながら解決したりする様子が伺える。また、質問紙調査の結果では、社会科の時間に「自分の考えがこれでよいのか見直している」と答えた子供は34名であった。しかし実際の授業では、友達の意見や他の資料と比較しながら、自分の考えが妥当かどうか再考したり、納得解を考えたりしている子供は多くない。

##### （2）本単元の学習に関する学級の実態

18名の子供が弥生時代を知っており、「里同士の争いがあった時代」「米づくりが始まった時代」などと争いが起こったことや米づくりが始まったことを知っている子供は10名いる。また、弥生時代にはどのような困難があり、その原因は何かを問うと「争いが始まり多くの人々が死んでしまう」「冬に食料がなくなって多くの人々が死んでしまう」という争いと米づくりが関連していない回答が多い。このことから、弥生時代は、米づくりが始まったことを知っている子供もいるが、常温で長期保存が可能であり、一粒から多くの量が採れるといった米の特徴が、弥生人にとってどのような価値をもっていたかについての理解や、米が争いにつながったことへの理解は十分ではない。

#### 2 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿と習得を目指す「解決する」方法

##### 課題設定

前時までの知識と新しく知った事実との違いを見付け、課題を設定していく。例えば、③時では、「縄文時代の人々のくらしはよく分かったよ。次の時代の弥生時代はどのようなくらしをしていたのかな」などとこれまでの知識と比べることで違いを見だし、課題を設定する。

**解決の見通し** 社会科のこつ（時間・空間・立場）を手掛かりに、本時使えそうな資料や既習を選び、解決の見通しをもつ。例えば、⑥時では「僕は、弥生時代に暮らす人々の立場で考えたのと同じように、古墳を作った仁徳天皇の立場で考えるとよさそう」などと解決の見通しをもつ。

##### 解決

##### 方法：「今の考えでよいかを確かめる」

見通しを基に、時間的視野や空間的視野、立場を広げながら、採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について友達と調べたり、説明し合ったりしていく。また、これらの事象を比較したり関連付けたり、今の考えでよいのか確かめたりしながら、世の中の様子の変化について考えていく。例えば、⑥時では「僕は、大仙古墳の資料から、大きい力を示したかったんだと思ったよ。他の人の考えと比べて（他の資料でも同じことが言えるのかを）確かめてみよう」「確かに。それに、地図から考えてみると、交易で通る外国人からしても何て力のある国だと思うだろうな」「なるほど。外国人に対しても、力の大きさを示せたんだね」「弥生時代と比べて考えると、弥生時代は争いで人々が困っていたけれど、これだけ大きな力がある人が現れると、それに人々が従い、争いは少なくなりそうだ」「なるほど。当時の権力者が古墳を作ろうと思ったのは、力の大きさを示して人々をまとめることや外国へのアピールという意味が考えられるね。」「労働の対価として米を受け取っていたという話からも、古墳時代になり、王を中心に、だんだんと人々がまとまってきたと思うよ」などと、むらからくへへと変化していっていることを捉えていく。

##### 振り返り

本時分かったことや分かった理由と自分なりのがんばり、友達のよかった考え、次時に分かってほしいことの中から自分が選択した観点で振り返りカードに記述する。時には、「〇〇さんのおかげで、米づくりによって食料が安定したことがよく分かったよ。ありがとう」などと友達と関わるよさを感じたり、参考になった友達に感謝を伝えることで互いに自己の貢献を感じたりしていく。

### 3 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

①時では、まず縄文時代に関する資料を掲示することで、漁や木の実などの狩猟採集の生活をしている様子を捉えられるようにする。その後、古墳時代に関する資料を提示し、巨大な古墳が強大な権力をもつ王のために作られたものであったことを伝え、古墳時代の暮らしの様子を読み取る場を設定する。そして、縄文時代から古墳時代にかけて生活に大きな変化があったことを捉えられるようにすることで、この間に人々の暮らしはどのように変わっていったのか知りたいという思いを高め、「大昔の人たちの暮らしはどのように変わっていったのだろう」と目標を設定する。



【縄文時代と古墳時代に関する資料】

### 4 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て (本時 4/7)

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p>① 大昔の人たちはどのような暮らしだったのだろう</p> <p>縄文時代や古墳時代の資料から各時代の大まかな様子を知り、単元の目標を設定する。</p>	<p>【認知段階】</p> <p>②時で、これまでの解決場面の学習を想起し、自分なりの考えをもつことはできても、合っているかどうか不安に思った経験を共有する。その後、「今の考えでよいのか確かめる」という方法をモニターに映しながら一緒に考えを再考することで方法を教示する。また、考えを確かめるために他の資料から考えたり、友達の考えを参考にしたりするとよいことを共有する。さらに、方法を使うことで、自分の考えやその理由が変わったり、より納得のいく考えが導き出せたりして、考えが深まったことを感じられるようにする。</p> <p>【想起段階】</p> <p>「考えを作った後はどうすればよかったかな」と問いかけることで、方法を想起できるようにする。その際、方法の言葉を掲示しておくことで、想起しやすくする。方法の想起がしづらい子供に対しては、個別に自己調整シートの解決場面を指差しながら想起を促す言葉かけをすることで、方法を想起できるようにする。</p>
二	<p>② 縄文時代はどのような暮らしだったのだろう</p> <p>縄文時代の暮らしの想像図や食べ物年表などの資料を調べ、縄文時代は狩りをしたり木の実などを集めたりといった、狩猟採集を行うとともに縄文土器を使った暮らしをしていたことを理解する。飢餓線の資料から、食料が不安定だったことを捉え、弥生時代はどうだったのか疑問をもつ。</p>	
三	<p>③ 弥生時代はどのような暮らしだったのだろう</p> <p>弥生時代の暮らしの想像図や食べ物年表などの資料から、米づくりの始まりや指導者の存在、食事、道具などについて調べ、弥生時代は米により生活が安定したことを理解する。</p>	
	<p>④ 米づくりが広がり、なぜ争いが起こったのだろう</p> <p>吉野ヶ里遺跡のさくやほり、首のない人骨の資料から学習課題を設定する。縄文時代の暮らしと比較しながら、弥生人にとっての米の価値を捉え、米づくりに必要な土地や道具などを巡って争いが起こったことを捉える。そして、祭壇の位置から指導者の重要性に気付き、争いに勝った指導者は他のむらを従え、くになくなっていったことを理解する。例として、卑弥呼について知る。</p>	
	<p>⑤ なぜこんなにも大きい古墳をつくろうと思ったのだろう</p> <p>大仙古墳の資料などの調べから、力の大きさを示したり、人々に協力させて支配したりするといった古墳の意味を多角的に考え、渡来人についても理解する。その後、地図アプリで大仙古墳を見て、その周りには大きな古墳が集まっていることに気付き、なぜこんなにも集まっているのか疑問をもつ。</p>	
四	<p>⑥ なぜ奈良や大阪に大きな古墳がたくさんあるのだろう</p> <p>前方後円墳の分布と規模の大きい古墳の数の資料や出土品の資料から近畿地方の豪族が強い勢力をもっていたことを捉える。また、大和朝廷という政府と大君という人物について知り、一つのくになってきたことを捉える。</p>	
五	<p>⑦ 大昔の人たちの暮らしはどのように変わっていったのだろう</p> <p>これまでの学びをまとめ、人々の暮らしや関係が変化したことにより国土が統一されていったことを捉え、米づくりの広まりと暮らしの変化の関係を考え、図や文章などにまとめる。</p>	

5 本時の学習

目 標	弥生時代に争いが起こった理由を話し合う活動を通して、弥生人にとって大切な米づくりに必要な土地や道具を奪い合っていることに気付き、指導者を大切にすることを考えることで、米づくりに適した土地を求めて勢力を拡大するために指導者を中心にまとまってきたことを理解する。
--------	---

学習活動	主な子供の意識
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。	<p>むらのみんなで協力して米を作り、食料が安定し困ることもなさそうだね</p> <p>首のない人骨があったんだね。さくやほりもあったんだね。</p> <p>このことからむら同士の争いがあったことが分かるよ。</p> <p>米づくりが広がって、なぜ争いが起こったのかな。</p> <p><b>米づくりが広がり、なぜ争いが起こったのだろう</b></p>
2 解決の見通しをもつ。	<p>A これまでと同じように縄文時代比べると分かりそう。</p> <p>B 縄文時代と弥生時代の違いから分かるかもしれないね。</p> <p>C 弥生人の立場から考えるとよさそうだね。</p> <p>D 弥生人は米づくりを始めていたね。</p> <p>C 米づくりに関したものが原因かも。</p>
3 争いの原因について話し合う。 (1)個人 (2)自由交流 (3)全体交流	<p>A 弥生時代から始まった米の価値がある、たくさんできるということが原因だと思うよ。他の人の考にも聞いてみよう。</p> <p>B 僕は米が保存できるものだったからこそ奪い合ったのだと思うよ。</p> <p>A 確かに。肉などは保存ができず、米は弥生人にとって命を守る大切なものだったんだね。</p> <p>C 米づくりに必要な土地を奪い合ったんだよ。</p> <p>D 確かに。それに水や道具も必要だったんじゃないかな。</p> <p>C そうだね。米づくりに水や作る道具も大切だからね。それに、作る人も多く必要だろうね。</p> <p>C 米づくりに必要なものを求めて争いが起こったということだね。</p> <p>米が弥生人にとって命に関わるほど大切なもので、それを作るために必要な土地などを奪い合って争いが起こったんだね。</p>
4 指導者の大切さについて話し合う。	<p>あれっ。真ん中には指導者。なぜ指導者が大切なのかな。</p> <p>争いにはまとまりが大切で指導者の存在が必要だったんだらう。</p> <p>争いに勝ったむらは大きくなり、くになるんだね。そのリーダーは王と呼ばれ、卑弥呼がその中の一人なんだね。</p>
5 本時の学習を振り返る。	<p>弥生人にとって、とても大切だった米づくりに必要な土地や水、道具などを奪うために争いが起きたんだね。そして、より土地を拡大するために指導者も大切になり、勝つことでむらからくにならっていったということだね。</p> <p>今日の学び方を振り返ろう。</p> <p>A Bさんの保存できるという意見のおかげで米の大切さがより分かったよ。</p> <p>B ありがとう。Aさんの「米は量が採れる」という意見もよく分かったよ。</p>

評 価	弥生時代に争いが起こった理由について、既習の資料や友達の考えを参考に今の考えでよいのか確かめながら、米づくりに必要な物をめぐって争っていたことを理解している。また、指導者を中心にむらが大きくなりまとまらっていったことを理解している。 【方法：発言、様相、ノート】
--------	---

6 本時の詳細 ( は、共調整を促す手立て)

～ 課題設定 ～ **学習活動1**

授業の初めに子供たちは、補助黒板やノートを基に、弥生時代は米の登場により、食料が安定したことについて自発的に振り返っていきましょう。その後、首のない人骨やほりやさくの資料を掲示し、むら同士の争いが起こったことを捉えられるようにする。そうすることで、前時までのずれに驚きを感じ、米づくりが広がって、なぜ争いが起こったのか知りたいという意欲を高め、学習課題を設定する。

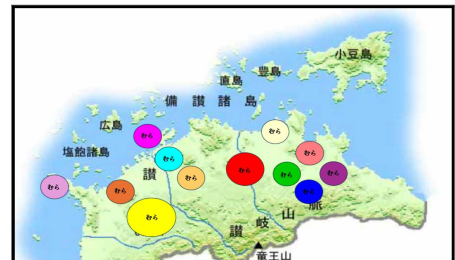
～解決の見通し～ **学習活動2**

これまでの学習経験から、社会科のこつ（時間・空間・立場）を手掛かりに、本時使えそうな資料や既習を選び、解決の見通しをもっていきましょう。その際、補助黒板や社会科のこつなど、既習を振り返りやすいものを選択できるようにする。また、必要に応じて他者と話し合ってもよいことを共通理解しておくことで、共調整を促す。

～ 解 決 ～ **学習活動3・4**

弥生時代にはなぜ争いが始まったのか考え、縄文時代と弥生時代の資料を関連付けながらノートに自分の考えを記述し、友達と交流していく。その際、縄文時代や弥生時代の想像図やそれぞれの図から読み取った生活の様子をノートや補助黒板に残しておくことによって、本時必要になる既習をいつでも確認できるようにしておく。自分の考えが書けた後は、争いの原因としてノートに記述されているであろう「土地」「水」「人」「米」「道具」の5つの原因を子供と確認しながら別々に板書する。そして、自分がどの考えに近いのかを問い、自分と近い考えのところにはネーム磁石を貼る場を設定することで、誰がどのような考えをもっているのか明確になり、方法を使いやすくする。また、「考えを作った後はどうすればよかったかな」と問い、方法を想起する。方法を使えていない子供には、手順を示した掲示物を指差し、方法を使えるように支援していく。全体交流では、「何のために必要だったのかな」と問いかけたり、5つの要素全てが「米づくり」に共通されることを板書で構造的に示すことで争いの原因は米づくりにあったことに気付けるようにする。

米づくりが原因だと考えがまとまった後、弥生時代の暮らしの想像図を見直す場を取り、高床式倉庫の場所を確認する。中央には高床式倉庫ではなく祭壇があり、米ではなく指導者が大切にされていることを理解する。「なぜ指導者が大切なのか」を問い、米づくりや争いには人の団結、連携が必要で、そのためには指導者が大切であることに気付いていく。そして、「勝ったむらはどうなるか」を問い、勝ったむらは負けたむらを取り込み、だんだんと大きなむらとなり、それがくにとなっていったことを理解できるようにする。



【大まかなむらの場所の資料】

～ 振り返り ～ **学習活動5**

本時の学習をまとめる。その後、分かった理由と自分なりのがんばり、友達のよかった考え、次時に分かってほしいことの中から自分が選択した観点で記述できるようにした振り返りカードを使って振り返りを行っていく。友達のよかった考えを見つけた人は、その相手によかったことを伝えるとともに名前を書くことで、友達と関わるよさや自己の貢献を感じられるようにする。また、社会科の見方・考え方や友達との関わり方に一つでも○がつけばパワーメーターに日付を書き、自己の成長を感じられるようにする。個人で振り返った後、「今の考えでよいかを確かめてよかったことはあったか」を問い、「考えが深まった」などの経験を想起できるようにし、共有することで、「今の考えでよいかを確かめる」という方法のよさを感じられるようにする。

＜振り返りシート＞		
目標「大昔の人たちの暮らしはどのように変わっていったのだろう」		
6年 西組 1番 ( 半澤 友博 )		
日/時	まとめ	社会科の見方・考え方 友達との関わり方
5/1	縄文時代に人口が増えた後、農・狩りの両方から米より縄文時代の資料の不足がもたらした。家畜の生活が定まった。	弥生時代の考えをまとめた(○) 縄文時代に交流(○) 記す(○) 資料が少なくまとめる(○) 友達と話を(○)
	※社会の見方・考え方 パワーメーター	先生、気付かなかったかもしれないけど、自分なりにここをがんばったよ。○さんのことがよかったよ。次は参考にしたい！ 1. 分かった。2. 気は取れない。3. 気は取れるようにしたい！
	※友達との関わり方 パワーメーター	今日は人口増加の理由について、我々人の立場に立てて考えることができた。一生懸命に友達と話を聞いてくれた。○さんが縄文時代の資料と比べて考えについて分かってきた。次は私も頑張るよ。
	※友達からの ありがとうメーター	

【振り返りシートの一部】